





# SDGs への取り組み:地域マネジメント学科

<b>目標</b>	経営学、経済学、政策学といった学術領域を組み合わせ、複合的な教育研究の展開を基盤に、持続可能な地域社会づくり、地域に根差したビジネスのあり方や行政・まちづくりの活動といった様々な経験や学習機会を創出・提供することで、SDGsの目標達成に貢献してまいります。
<b>授業での取組事例①</b>	<p><b>復興への学びを通して持続可能な地域を目指す</b>                  (担当教員) 桜田葉子 教授、木村信綱 教授、田川寛之 助教                  (科目名) 福島と復興 (実施時期) 令和5年4月～7月</p> <p><b>【教育目標】</b>                  東日本大震災以降の福島県下において解決が求められている様々な社会課題に対し、学生一人一人の気づきの涵養を図る。多くの人々が抱えてきた福島での暮らしへの思いを基盤としてこれまで復興の歩みが重ねられてきたことを学び、能動的・自律的に行動に結びつけられることを目指す。</p> <p><b>【実施概要】</b>                  専門的な知識の教授に加え、被災地で学ぶ意義や学びの姿勢を履修者が身につけられるよう促した。講義を通じ、履修者が復興を自分ごとと認識し、地域社会に対する問題関心を強くするようグループディスカッションやレポートのテーマ設定を行った。</p> <p><b>【学習効果】</b>                  専門的な講義より得た知識を基に、学生によるグループディスカッションを繰り返すことで、社会を持続可能にするための社会参画意識が学生自身の中に芽生える契機となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>16 平和と公正をすべての人に</p> </div> </div>
<b>授業での取組事例②</b>	<p><b>「私のふるさと」をテーマに現代社会の構造的問題を考える</b>                  (担当教員) 伊藤裕顕 准教授 (科目名) 基礎ゼミナール (実施時期) 令和5年10月～令和6年1月</p> <p><b>【教育目標】</b>                  地域課題をSDGsの視点で見つめ、抽出することで、多角的な視野の獲得につなげ、解決策の提示までを含めた発展的な思考様式を身につけることを目指す。</p> <p><b>【実施概要】</b>                  年間テーマである「私のふるさと」に則したレポート作成、プレゼンテーション実践の過程で、SDGsの視点から地元自治体(ふるさと)の課題を探り、解決策を導き出す。特に、日本では見逃されがちな「貧困」や「飢餓」の視点に重点を置くよう指導している。</p> <p><b>【学習効果】</b>                  SDGsを学習することで、日本の現代社会に潜在する構造的問題の認識に結びつけることを期待している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>1 貧困をなくそう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2 飢餓をゼロに</p> </div> </div>
<b>研究での取組事例</b>	<p><b>福島の生活と歴史的文化的資源の保存と交流を考える</b>                  (担当教員) 黒石いずみ 教授 (連携先) 福島建築士会 (実施時期) 令和4年～現在</p> <p><b>【研究目標】</b>                  福島県内の恩賜郷倉の実態調査、その地域社会での役割の調査と研究を行い、木造規格建築の社会的意味を明らかにする。</p> <p><b>【研究概要】</b>                  1934年ごろから東北で4000件建設された恩賜郷倉の調査を15年前から行ってきた。2年前からは実際に残っている郷倉を研究している研究者と協力し、福島県内の事例を訪問、実測調査を行っている。木造規格建築の災害時の役割を明らかに意図した建造物として現代に役立つものであり、100年近くにわたるリノベーションや活用の経緯を明らかにしようとしている。</p> <p><b>【研究成果】</b>                  シンポジウム講演「みやぎボイス 2023～100年のパースペクティブで復興を考える～「より良い」復興理念と仮設建築：恩賜郷倉と住田仮設住宅」2023年9月2日,他。</p> <div style="text-align: right;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div>
<b>学生の取組事例</b>	<p><b>キクラゲを通して環境を考える</b>                  (活動団体) キクラゲプロジェクトメンバー (担当教員) 木村陽子 教授 (活動時期) 令和5年6月～</p> <p><b>【活動目標】</b>                  キクラゲを題材に環境・放射性物質・地域開発・地域貢献・国際性等の重要な領域が相互に関係をもち、広がりがあることを学び深めながら、ブランド作り、販路拡大、環境問題、地域開発等キクラゲ以外にも適用できる方法論を体得し、その面白さを学ぶことを最終目標とする。</p> <p><b>【活動概要】</b>                  「キクラゲを通じて、福島環境、農業、未来を考える」をテーマに、2年計画のプロジェクトにより各関連項目を掘り下げる。E-Actふくしま(ふくしま環境基本計画推進協議会)主催の「環境フェスタ」イベントに参加、学生主体による本学科ブースを出展し設営・企画・運営・展示物の説明等を行った。</p> <p><b>【成果】</b>                  令和5年度開催(10月1日(日))の「2023ふくしま環境フェスタ」では、キクラゲの説明・栽培方法、キノコが森を守っていること等を来場者へ説明し、理解して頂くことができました。今後は学外連携(キクラゲ生産者とのネットワークの形成・強化等)を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> </div> </div>